

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

温度ロガーを用いた装具装着時間の実態調査

### 2. 研究責任者(当院)

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：木村 弘美

### 3. 分担研究者

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：大崎 美奈子、小谷 俊明、佐久間 毅

### 4. 研究対象者

2019 年 7 月 1 日～2 年ごとに更新し、対象者が装具治療終了まで〔新規で側弯症装具治療〕を受けた方、又は受ける方。

### 5. 研究の必要性

特発性側弯症において、Cobb 角が 20 度までは経過観察となるが、20 度を超えると装具治療が必要になる。基本入浴時間以外、20 時間以上の装着が治療効果として必要とされるが、装着時間は本人、保護者からの聞き取りであり、信頼性があるとは判断しにくかった。そこで、2018 年の研究においてボタン電池式の温度感知器である、温度ロガーを使用しての装具装着時間の把握が可能であるか看護師で実践した。結果は、装具の腹部に温度ロガーを設置し、閾値温度 30℃以上を装着時間として判断できると報告した。2019 年の研究では、装具治療をおこなう患児の装具の腹部に温度ロガーを装着し 30 分ごとに自動で温度測定をする。30℃以上を装着していると判断し、計測をおこなうことで温度ロガーは正確に装具装着時間を把握するためのツールとして有効性があると報告した。2020 年の研究では、温度ロガーによる装着時間と併せて、これまで聞き取りしていた装着時間を、患児にタイム表を渡し、1 日の装具を外した理由と時間を記入してもらった。1 ヶ月後の外来受診に温度ロガーとタイム表を回収し、比較検討することで装着時間に違いがあるか調査し、自己申告の方が実際の装着時間より長く申告する傾向であることがわかり正確な装着時間の把握に温度ロガーの活用が望ましいと報告した。今回、温度ロガーを用いた対象の 45 名において、装具開始 1 ヶ月間の装具装着時間を確認し装着時間の実態と装着時間時間に影響を及ぼす関連因子がないか把握することで、その後の診療への関わりを看護としてどう支援していくか調査する。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

装具装着時間の確認は口頭であり、正確な時間把握が困難であった。温度ロガーの活用により患児の装具装着時間が正確に把握でき、今後の装具治療効果の判断や心理的影響との関連分析に役立つ。看護として患児、保護者に対し装具治療時の身体的、精神的な関わり of 適切な支援に繋がると考える。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1155

担当者氏名：木村 弘美

対応時間：平日 08：30～17：00

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。  
お問合せは、本研究に参加された方と研究関係者のみで、その他の方へのご対応はできませんので、予めご了承ください。